

討議概要

議事内容及び主な発言は次のとおり。

(1)地域活性化事業の進捗状況について

①地域の魅力を伝える「いわて・カシオペアブランド」発掘・発信事業（特産物活用ワーキンググループ提言事業）

【二戸市・軽米町・一戸町・九戸村】

ア) 事業概要

- ・事業のコンセプトは「人づくり・ブランドづくり・ファンづくり」。地域の事業者や住民がワークショップ等を通して、地域資源の発掘・磨き上げを行いながら「ブランドづくり」を行うとともに、魅力発信スキルを習得する「人づくり」も実施。戦略的な情報発信を行うことで、カシオペアブランドの認知度を向上させ「ファンづくり」につなげ、地域内の稼ぐ力を高めていく事業である。
- ・当該事業のブラッシュアップに向け、4市町村により新たに立ち上げたプロジェクトチームで協議を重ねた。
- ・連携事業として、各市町村の9月議会で採択・予算化されるに至り、事業を始動。当該事業費の3分の2は岩手県の交付金を活用している。4市町村が協働して各市町村で予算化しての連携は初の試みであり、非常に画期的。

イ) 主な意見

- ・地域内の稼ぐ力を高める事業として素晴らしい取り組みであるが、地方公共団体以外の構成機関が関与する場面が少ないと思われる。他の機関も含めた連携とし、稼ぐ力を高める事業として、金融機関から提言のあった「農家の直売所事業」や「カシオペア地域内の物産展・商談会事業」も進める価値があるのではないかと。

②遊休農地を利用した漆原木の確保（特産物活用ワーキンググループ提言事業）【二戸市】

ア) 事業概要

- ・市有地を活用した連携をするため平成29年9月岩手銀行と漆の林づくりパートナー協定を締結し、漆植樹事業を進めている。
- ・重要文化財の修復等に国産漆を利用するとの文化庁通知により、大量の漆需要が生まれた一方で、二戸市の調査の結果では、原木の大幅な減少が確認されており、漆植樹事業を推進していきたい。
- ・岩手県と共同で「いわて漆振興実務者連絡協議会」を設立し、①漆掻き職人の養成、②原木確

保、③情報発信を進めるため、産官学金の関係機関と連携していくことから、当該事業の推進にご協力をお願いしたい。

イ) 主な意見

・文化庁通知のみをもって、漆の大規模植樹事業を進めるのはややリスクがあるのではないか。
例えば、国宝・重要文化財の修理には国産漆を使用する旨の文言の法制化を目指す取り組みなどをしてはどうか。

(2)さらなる地域活性化の方策について

今後のフォーラムの在り方について

・カシオペア地域資源活用研究会の設置にかかる提言【二戸地域振興センター】

新たな地域活性化事業などを検討する継続協議体制として、フォーラムの中に「カシオペア地域資源活用研究会」の設置が提言され、全機関から承認された。

ア) 提言概要

- ・ワーキンググループから提言された地域活性化事業が始動してきている中で、今後のあり方として、青年層が主体となって、地域資源を活用した新たな地域活性化事業や、各構成機関が実施する事業を広く展開するための方策などを検討できる体制を構築。
- ・研究会の運営にあたり、事務局をカシオペア青年会議所と二戸地域振興センターの2者が担い、アドバイザーを盛岡財務事務所とする。開催テーマは事務局が検討し、研究会には、内容に応じて各機関が独自の判断で参加するほか、必要に応じ外部有識者等の招へいも検討する。
- ・研究会で検討した地域活性化事業はフォーラムで提言し、フォーラムでは事業の実施に向けた協議や、導入した事業の進捗管理を行うなど、地域活性化に向けたP D C A機能を担う役割に位置づける。

最後に、盛岡財務事務所 佐藤所長から、以下のとおり感想が述べられた。

《感想》

東北管内で広域連携のフォーラムを開催している地域では、地方公共団体の優先度の違いもあり、共通課題に対する連携がなかなか進まない中、今回の4地方公共団体の連携事業が始動したことは非常に有意義である。事業を実施していく中で現れる課題に対しては、フォーラムで協議するなどP D C Aサイクルを機能させ、地域活性化事業の実効性を確保していただきたい。



フォーラム会場の模様



挨拶をする佐藤盛岡財務事務所長